

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書
(平成24年度分)

平成25年10月
魚沼市教育委員会

目 次

◆ 点検及び評価制度の概要について	2
◆ 教育に関する事務の管理及び執行の状況	
学校教育課分	4
生涯学習課分	15
子ども課分	25

点検及び評価制度の概要について

1 制度について

教育基本法が制定以来およそ60年ぶりに改正され、さらに教育三法が改正される中、中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。

こうした状況を背景に、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」のひとつとして、同法第27条の規定に基づき、平成21年度から教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価(以下「点検・評価」という。)を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

【根拠法令】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(平成20年4月施行)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的について

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会である。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされます。

事務の点検・評価は、上記地教行法第27条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育環境を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任(アカウンタビリティ)を果たすための体制を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的とします。

3 対象事業の考え方

本年の点検・評価は、平成24年度における教育委員会の権限に属する事務のうち実際に教育委員会が管理・執行している主要な事務事業を対象としました。

対象としている事業について担当部局(学校教育課、生涯学習課、子ども課)ごとに、その成果や効果、また課題や問題点を点検・評価し、事務の管理及び執行の状況についての自己評価を実施しました。

4 学識経験者の知見の活用

点検・評価を実施するにあたり、地教行法第27条第2項の規定による知見の活用を図るため、「教育

に関する事務の点検及び評価実施要綱」を定め、選任した学識経験者2名から、教育委員会事務局が行った点検・評価シートごとの結果(自己評価)について、外部評価を受けるという形で実施しました。

魚沼市教育委員会 事務点検評価者(平成25年)

氏 名	経 歴 等
中 島 郁 雄	新潟県立小出高等学校長
林 悦 子	元魚沼市市民課長

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>教育委員会運営事業 ◎教育委員会の会議の開催状況について ◎教育委員の市内小中学校・幼稚園及び保育園等訪問について</p>
<p>重点目標</p>	<p>①開かれた教育行政の実現に努める。 ②教育委員会、事務局、学校その他教育機関の連携を密にし、情報・意見交換を積極的に行う。 ③教育委員としての自覚を持ち、研鑽に努めるべく関係会議及び研修会へ出席する。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>教育委員会の会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」及び必要に応じて「臨時会」「協議会」を開催し、平成 24 年度は合計15回開催しました。 また、教育における諸問題、懸案事項について詳細に報告することにより、問題解決に向けた意見交換を行えるよう努めました。 なお、市内小中学校(15校)及び幼稚園保育園(11ヵ所)他を訪問し、現場の様子を視察するとともに各学校等の問題や課題の報告を意見交換しました。</p> <p>(1) 教育委員会の会議の開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会…………… 12回(議案34件、臨時代理6件) ・教育委員会臨時会…………… 2回(議案2件、臨時代理1件) ・教育委員会協議会…………… 1回(協議1件) <p>(2) 学校、幼稚園訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとに訪問…… 6回(小学校9校、中学校6校、幼稚園2ヵ所) <p>(3) 保育園等訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園等の訪問…… 2回(保育園9ヵ所、放課後児童クラブ他9ヵ所) <p>(4)各種会議・研修会の出席状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚沼市教育振興会総会(堀之内中学校) ・新潟県市町村教育委員会連合会定期総会研修会(柏崎市) ・「教育懇談会」及び「特別支援教育講演会」(小出郷福祉センター)
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>情報公開や公表の意義と必要性等を整理するため他教育委員会の状況調査をし、透明性のある委員会の管理運営を進めるため、会議録の一般公開を今後検討していくこととする。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・中学校区ごとに訪問し、現場の視察、各学校等の問題、課題の意見交換、給食を児童生徒とともに食べてくる方法は、現場の要望など聞き取りやすいやり方である。 ・学校訪問対応は、管理職や現場の教職員が教育委員と充実した意見交換となるよう、十分な配慮をお願いしたい。 ・会議録の一般公開については、近隣自治体の実態調査後、あらゆる角度から問題、課題を分析し、十分な体制で臨んでもらいたい。</p>

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>教育支援事業 ◎介助員・指導主事・別室登校支援員の活動等について</p>
<p>重点目標</p>	<p>〈介助員〉 特別支援学級等の在籍児童生徒の心身の状況や在籍数を考慮して介助員を配置し、個別支援を必要とする児童生徒に対して支援を行います。</p> <p>〈嘱託指導主事〉 嘱託指導主事 3 名による学校支援をとおして、学校現場の抱える学習指導や生徒指導上の課題解決を図ります。</p> <p>(1) 若手教員育成研修「魚沼塾」の実施により、魚沼市内の小中学校に勤務する若手教員の資質向上を図ります。</p> <p>(2) 嘱託指導主事の支援により、担当する重点校の学習指導、生徒指導を充実させます。</p> <p>(3) 「ふるさと力」を生かした特色のある教育活動を推進します。</p> <p>〈別室登校支援員〉 「登校はするが、教室に入るのが困難で、主として別室で学習している児童生徒」に対して個別の指導を行います。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>〈介助員〉 市内 11 小中学校に 25 人の介助員を配置し、きめ細やかな支援を行ってきました。児童生徒はできることが少しずつ増え、自立につながる力を着実に身に付けています。</p> <p>〈嘱託指導主事〉 (1) 若手教員育成研修「魚沼塾」について 魚沼市内の小中学校に勤務する若手教員（経験年数 2～6 年目の教諭及び講師）を対象に、授業の進め方や学級経営上の悩み等についての指導助言及び相談に応じてきました。昨年度の 2 倍以上の参加者があり、積極的に研修が進められました。参加者からは、研修が大変良かったとの感想が多く得られています。</p> <p>(2) 学校支援について 1 年生を中心に、TT 指導や導入期における学習習慣の確立等を中心にサポートしました。また、不登校やいじめ等の問題行動に対して、担当職員や管理職に対して助言を行いました。また必要に応じて、スクールソーシャルワーカー等との関係機関との橋渡しを行いました。学習規律の確保や、問題行動への対応について効果的に関わることができました。</p> <p>(3) 特色のある教育活動の推進について 「英語村」、「環境フォーラム」、「キャリア教育」等の事業を推進しました。それぞれの事業の所期の目的が達成されました。</p> <p>〈別室登校支援員〉 市内 4 小中学校の別室登校児童生徒に対して、3 人の別室登校支援員を配置し、支援してきました。心の安定を図り、少しずつ教室に復帰できる児童生徒も見られるようになってきました。また、中学生は卒業後の進路を見据え、自分なりの目標を設定しながら学校生活を送る姿も見られました。</p>

<p>課題及び改善点</p>	<p>〈介助員〉 特別支援学級在籍の児童生徒が年々増え、児童生徒の実態が多様化していることから、介助員の増員も含めた配置の見直しを行っていく必要があります。</p> <p>〈嘱託指導主事〉 魚沼塾については、受講者の取組に対する意欲の差により、成果に差が生じています。指導主事による指導と校内における指導が効率的に連動していく必要があります。また、学校の学習規律の確保や生徒指導上の課題解決は、教職員がいかに組織的に動けるかどうかに係っています。管理職の意識や力量も問われています。</p> <p>学習指導センターの割愛指導主事の減員により、今後益々嘱託指導主事の責任が重くなることが予想されます。</p> <p>〈別室登校支援員〉 学校はもちろん、市の適応指導教室との連携を図りながら、よりよい指導の在り方について検討していく必要があります。また、場合によっては医療機関等関係機関との連携も視野に入れながら指導に当たっていくことが大切になります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介助員について、児童生徒の自立に向けたきめ細やかな支援は評価できます。 ・特別支援学級等での介助員の個別支援は有効である。今後、予算が許せば、状況に応じて増員も検討されたい。 ・若手教員育成研修「魚沼塾」は、最近の若い教員に向いている研修方法である。参加者が増えている点は評価できます。多忙な中での研修ではあるが、今後も教師力をアップするために取組んでもらいたい。 ・魚沼塾について、受講者の満足度が得られていることは評価できます。実のある研修の積み重ねが若手教職員の育成につながる。今後も充実した魚沼塾となっていくことを願いたい。 ・別室登校支援員は、適応指導教室指導員とも連携して情報を共有していただきたい。 ・別室登校支援は、児童生徒はもちろん保護者への相談体制、学校との連携を密にし息の長い支援に努力をお願いしたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>不登校・いじめ問題対策事業 ◎適応指導教室の指導員の活動等について</p>
<p>重点目標</p>	<p>不登校等で学校に適応できない小・中学生に対し、集団生活への適応指導・学習支援・体験活動の指導等を行い、学校生活への復帰を支援しています。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>適応指導教室(フラワールーム)に 2 名の職員を配置し、以下の活動を行っています。</p> <p>①不登校児童生徒への支援 「安心して過ごせる居場所づくり」「学習支援(自学の環境整備)」「体験活動」など</p> <p>②保護者への支援 「親の会『心の談話室』の開催(月 10 回)」「フラワールーム通信の発行」など</p> <p>③学校への支援 「在籍校長や担任との情報交換」など</p> <p>これらの活動を通して、以下のような成果が見られました。</p> <p>○スケジュールに沿って自分から動き、集中して取り組む姿。</p> <p>○日常的に子供同士の会話が増えることにより互いのよさが見え、認め合い優しい言葉を掛け合う姿。</p> <p>○体験学習で、周囲の様子を見ながら自分で考えて行動したり、目的意識を持って進んで取り組んだりする姿。</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>学校(管理職・担任等)との連携の度合いが、児童生徒の成長に大きくかわります。定期的な訪問を促したり、積極的に面談の機会をもったりすることが大切であると考えます。</p> <p>また、別室登校支援員との連携を図り、情報を共有していく必要があります。場合によっては医療機関等関係機関との連携も視野に入れながら指導に当たっていくことが大切になります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・当該生徒が、学校復帰を目指し、目的意識を持って取り組んでいることは評価できます。また、堀之内地域に近い子どもが多い状況は、調査する必要がある。</p> <p>・学校復帰につながるように、別室登校支援員と連絡を密に取っていただきたい。</p> <p>・児童、生徒の不登校は発達障害などが原因となっていることもあるので、医療等関係機関とも連携していただきたい。</p> <p>・生徒、保護者、学校との連携及び関係機関、関係部署との更なる連携強化をお願いしたい。</p>

平成 24 年度 実施事業等	<p>語学指導助手招致事業</p> <p>◎外国語指導助手(ALT)2人の活動等について</p>
重点目標	<p>外国青年ALT2人を市立幼稚園、小・中学校に派遣することで、子どもたちがネイティブな英語に触れ、外国語や異文化に興味を持ち、幼少期や学齢期における語学力やコミュニケーション能力の素地が形成されるよう、英語学習等の充実を図ります。</p> <p>日本人ALT2人を小学校に派遣し、必修化2年目となる外国語(に親しむ)活動を前年度から継続して支援します。</p>
取組の状況 と 結果・成果	<p>外国青年ALT2人とも教師とよく連絡を取り合い、計画どおりに英語学習の授業に入り、子どもたちがネイティブな英語に触れるとともに、異文化に親しむことができました。ALTが自ら作成した補助教材等も活用し、英語に興味を持てるように子どもの知的好奇心を刺激しました。</p> <p>また、平成24年8月に外国青年ALT1人の入替があり、新たに来日したALTが日本の生活に慣れ、授業に専念できるよう支援しました。</p> <p>小学校の外国語活動(5,6年生、必修化2年目)、外国語に親しむ活動(1~4年)に日本人ALTが入り、自ら作成した補助教材等も活用するなどして、授業を支援しました。</p>
課 題 及び 改 善 点	<p>児童生徒は毎年繰り上がり入れ替わっていくため、ALTによる授業を継続して実施し、子どもたちが幼少期・学齢期の早い段階から外国語や異文化に興味を持ち、英語に親しめるように外国青年ALT・日本人ALTを派遣していく必要があります。</p> <p>外国青年ALT、日本人ALT派遣の成果について、例えば教職員や児童生徒にアンケートをするなど、どのように事業評価をするかが課題である。</p>
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが英語を話す外国人に苦手意識を持たないよう、幼少期や学齢期にネイティブな英語に触れられる環境を提供している点は評価できます。 ・日本人ALT2人も加えているが、さらに充実していただきたい。 ・話せる英語に繋がる授業となるよう、事業の継続をお願いしたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業 ◎スクールガードについて ◎メール配信システムについて</p>
<p>重点目標</p>	<p>スクールガードは、地域住民が児童・生徒の登下校中の事故防止のための交通安全指導や、不審者が出没した際の防犯のための見守りを行っています。 メール配信システムは、利用登録をした幼稚園・保育園や小中学校の保護者、スクールガードの携帯電話に、不審者情報等をメールで学校や教育委員会から情報発信し、見守り等の依頼を早期に行ない、事故を防止することを目的としています。 これら地域住民も含めて、見守り体制を整備し、児童生徒の登下校中の事故が発生しないようにすることを目指しています。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>昨年度は熊の出没が相次ぎましたが、教職員の付き添い、学校や家庭における安全教育、メール配信システムやスクールガードの見守りもあり、事件・事故はありませんでした。また登下校中に大きな交通事故も発生しませんでした。 スクールガードは、老人クラブの独自事業として見守り活動を行なっている入広瀬小学校を除き、全小学校で活動しております。なお、スクールガードの登録は、児童生徒数や人口の減少とともに、平成 23 年の 418 人から 22 人の減の 396 人となりました。 メール配信システムへの保護者の登録状況は幼稚園・保育園と中学校で約 70%、小学校で約 80%となっております。一方スクールガードの登録は約 20%です。このスクールガードの登録率の低さは平成 24 年度の夏より登録を呼びかけるようになり、半年程度しか経っていないことと、登録操作の煩わしさや困難さが原因と思われます。 なお、スクールガードは長年にわたる活動に対し、交通安全功労団体として平成 25 年度魚沼市交通安全協会地区連盟表彰を受けました。</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>スクールガードは平成 25 年度 6 月現在では 353 人となり、前年に比べ 43 人の減となりました。なお、入広瀬小学校では、老人クラブの自主活動から、保護者も含めたスクールガードとしての活動が行なわれるようになりました。 事故の防止のための学校や家庭における安全教育に加え、地域を含めた安全確保の体制作りが重要と考えます。そのため、スクールガードの人数が減少傾向にあることは危機的状況であり、その人員の確保を含めた「地域として見守り体制を構築する」という意識づくりのため、学校や保護者、自治会や警察、防犯協会等と連携を高めていく必要があります。 メール配信システムについては、スクールガードを中心に登録を呼びかけていくとともに、登録作業を簡略化する等して、登録しやすい環境づくりを検討する必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガードがボランティアでこのような活動が成り立っているところは評価できるので、毎年、新規にスクールガードの人員を確保できるよう、一層の工夫をしていただきたい。 ・子ども110番(県警)設置の店が減少していることは否めないが、児童生徒、保護者の認知度が不明である。また、年1回、年度当初のみの安全指導では効果は低いので、特に低学年は、スクールガード、学校、保護者が一緒に通学路上で学ぶことが必要である。なお、降雪期の安全指導においても同様である。 ・地域全体での見守り体制について、市の嘱託員会議等で協力依頼を検討いただきたい。 ・メール配信システムも保護者の登録が 70%～80%となっており、ある程度の役割は果たしていると評価できます。 ・スクールガードのメール配信システム登録の環境整備を、積極的に進めてもらいたい。 ・児童生徒、保護者、地域、それぞれの情報を収集し共有していくことが安全対策に生かされつながっていくので、具体的な体制整備を検討いただきたい。

平成 24 年度 実施事業等	奨学金貸与事業																																																												
重点目標	学習意欲が高いものの、経済的理由により就学が困難となっている学生に奨学金を貸与し、教育の機会均等を図るものです。																																																												
取組の状況 と 結果・成果	<p>① 貸与状況</p> <table border="1" data-bbox="443 443 1278 842"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">学校種別</th> <th colspan="2">貸与人数</th> <th rowspan="2">年間貸与金額</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学生 (短大含む)</td> <td>国公立</td> <td>7人</td> <td>13人</td> <td rowspan="2">51,600 千円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>9人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">専門学校生</td> <td>国公立</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">10,450 千円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>17人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高校生</td> <td>国公立</td> <td>3人</td> <td></td> <td rowspan="2">920 千円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>37人</td> <td>71人</td> <td>62,970 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 奨学基金運用状況 奨学基金額 612,000千円 (単位:千円)</p> <table border="1" data-bbox="443 927 1366 1196"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23 年度末</th> <th>増</th> <th>減</th> <th>24 年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">現金</td> <td rowspan="2">19,216</td> <td>返 還</td> <td>貸 与</td> <td rowspan="2">38,994</td> </tr> <tr> <td>82,748</td> <td>62,970</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貸付金</td> <td rowspan="2">592,784</td> <td>貸 与</td> <td>返 還</td> <td rowspan="2">573,006</td> </tr> <tr> <td>62,970</td> <td>82,748</td> </tr> <tr> <td>基金合計</td> <td>612,000</td> <td>145,718</td> <td>145,718</td> <td>612,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成24年度は新たに大学生19人、専門学校生8人の計27人を奨学生に採用し、15,850千円貸与しました。 また、平成23年度から継続の奨学生81人に47,120千円を貸与し、経済的な就学困難者を支援しました。</p>	学校種別		貸与人数		年間貸与金額	県内	県外	大学生 (短大含む)	国公立	7人	13人	51,600 千円	私立	9人	57人	専門学校生	国公立			10,450 千円	私立	17人	1人	高校生	国公立	3人		920 千円	私立	1人		合 計		37人	71人	62,970 千円	区分	23 年度末	増	減	24 年度末	現金	19,216	返 還	貸 与	38,994	82,748	62,970	貸付金	592,784	貸 与	返 還	573,006	62,970	82,748	基金合計	612,000	145,718	145,718	612,000
学校種別				貸与人数			年間貸与金額																																																						
		県内	県外																																																										
大学生 (短大含む)	国公立	7人	13人	51,600 千円																																																									
	私立	9人	57人																																																										
専門学校生	国公立			10,450 千円																																																									
	私立	17人	1人																																																										
高校生	国公立	3人		920 千円																																																									
	私立	1人																																																											
合 計		37人	71人	62,970 千円																																																									
区分	23 年度末	増	減	24 年度末																																																									
現金	19,216	返 還	貸 与	38,994																																																									
		82,748	62,970																																																										
貸付金	592,784	貸 与	返 還	573,006																																																									
		62,970	82,748																																																										
基金合計	612,000	145,718	145,718	612,000																																																									
課 題 及び 改善点	<p>高等学校の授業料無償化の動きや、日本最大の奨学金事業組織である(独)日本学生支援機構(旧・育英会)の貸付枠拡大の動きにより、魚沼市奨学金は過去2年募集定員を満たさない状況が続いています。 また、昨今の経済不況により、奨学生や保護者(連帯保証人)の経済状況や就職状況が変化し、奨学金の返還が滞る事例が増加する傾向にあります。 奨学金制度の趣旨を啓発しながら、滞納額の縮減に努めていきます。 ※未納返還金残高 H21 4,833 千円 H22 5,129 千円 H23 6,548 千円 H24 6,977 千円</p>																																																												
【外部評価】	<p>・経済的理由で就学が困難になっている学生に奨学金を貸与しているので、奨学金の返還が滞る事例が出て未納返還金残高が増加している点は、ある意味やむを得ないが、返還金が次の奨学金の原資となっているので、滞納額の縮減に努める必要がある。 ・貸付時における奨学金制度の理解を求めるとともに、滞納額縮減の具体的な対策が必要である。同時に、徴収事務が一元化され、税務課との連携はもちろんのこと、「滞納整理強化期間」を設置する等、課全体で滞納額の整理、縮減に取り組む必要がある。</p>																																																												

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>自然環境学習推進事業 ◎魚沼尾瀬学校について</p>																																																												
<p>重点目標</p>	<p>尾瀬での自然環境学習を通じ、身近な自然環境や環境保全活動について感心を高め、人間と環境の関わりについて理解と認識を深めます。</p>																																																												
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>≪平成24年度実施状況≫</p> <table border="1" data-bbox="422 622 1390 1077"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>学校名</th> <th>日程</th> <th>コース</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>堀之内小学校</td> <td>7/3～7/4</td> <td>尾瀬沼周回コース</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>小出小学校</td> <td>7/5～7/6</td> <td>尾瀬沼日帰り・奥只見宿泊コース</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>伊米ヶ崎小学校</td> <td>6/27～6/28</td> <td>尾瀬沼周回コース</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>井口小学校</td> <td>7/12～7/13</td> <td>尾瀬沼-尾瀬ヶ原-鳩待峠コース</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>広神西小学校</td> <td>7/30～7/31</td> <td>尾瀬沼周回コース</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>広神東小学校</td> <td>8/6～8/7</td> <td>尾瀬沼日帰り・銀山平宿泊コース</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>須原小学校</td> <td>6/26～6/27</td> <td>尾瀬沼周回コース</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>入広瀬小学校</td> <td>7/4～7/5</td> <td>尾瀬沼周回コース</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>355</td> </tr> </tbody> </table> <p>※宇賀地小学校は 5・6 年合同で隔年実施。平成24年度は実施なし。</p> <p>≪平成24年度費用助成額≫助成対象:児童・引率教員</p> <table data-bbox="379 1167 1034 1361"> <tr> <td>環境学習ガイド報償費(全額助成)</td> <td>249 千円</td> </tr> <tr> <td>スクールバス送迎委託料(全額助成)</td> <td>1,095 千円</td> </tr> <tr> <td>遊覧船乗船代等交通費(全額助成)</td> <td>607 千円</td> </tr> <tr> <td>宿泊費(半額助成)</td> <td>2,687 千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,638 千円</td> </tr> </table>	No.	学校名	日程	コース	人数	1	堀之内小学校	7/3～7/4	尾瀬沼周回コース	52	2	小出小学校	7/5～7/6	尾瀬沼日帰り・奥只見宿泊コース	95	3	伊米ヶ崎小学校	6/27～6/28	尾瀬沼周回コース	19	4	井口小学校	7/12～7/13	尾瀬沼-尾瀬ヶ原-鳩待峠コース	65	5	広神西小学校	7/30～7/31	尾瀬沼周回コース	45	6	広神東小学校	8/6～8/7	尾瀬沼日帰り・銀山平宿泊コース	46	7	須原小学校	6/26～6/27	尾瀬沼周回コース	22	8	入広瀬小学校	7/4～7/5	尾瀬沼周回コース	11				合計	355	環境学習ガイド報償費(全額助成)	249 千円	スクールバス送迎委託料(全額助成)	1,095 千円	遊覧船乗船代等交通費(全額助成)	607 千円	宿泊費(半額助成)	2,687 千円	合計	4,638 千円
No.	学校名	日程	コース	人数																																																									
1	堀之内小学校	7/3～7/4	尾瀬沼周回コース	52																																																									
2	小出小学校	7/5～7/6	尾瀬沼日帰り・奥只見宿泊コース	95																																																									
3	伊米ヶ崎小学校	6/27～6/28	尾瀬沼周回コース	19																																																									
4	井口小学校	7/12～7/13	尾瀬沼-尾瀬ヶ原-鳩待峠コース	65																																																									
5	広神西小学校	7/30～7/31	尾瀬沼周回コース	45																																																									
6	広神東小学校	8/6～8/7	尾瀬沼日帰り・銀山平宿泊コース	46																																																									
7	須原小学校	6/26～6/27	尾瀬沼周回コース	22																																																									
8	入広瀬小学校	7/4～7/5	尾瀬沼周回コース	11																																																									
			合計	355																																																									
環境学習ガイド報償費(全額助成)	249 千円																																																												
スクールバス送迎委託料(全額助成)	1,095 千円																																																												
遊覧船乗船代等交通費(全額助成)	607 千円																																																												
宿泊費(半額助成)	2,687 千円																																																												
合計	4,638 千円																																																												
<p>課題 及び 改善点</p>	<p>今後も現状を維持しながら継続的に実施していくべき事業だと思います。</p>																																																												
<p>【外部評価】</p>	<p>・尾瀬の新潟県側の玄関口となっている魚沼市で、このような事業に取り組んでいることはとても意義深い。小学 5 年生が全員宿泊をともなった団体行動で、尾瀬の自然に触れるということは、様々な経験が自身の貴重な財産となるため、今後も充実させ継続していただきたい。</p> <p>・子ども達にとって忘れられない思い出となることであり、優良な事業である。また、市単独事業で他からの財政的な支援はないが、事故のないよう継続して実施をお願いしたい。</p>																																																												

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>小学校管理事業、中学校管理事業 ◎要保護・準要保護児童生徒就学援助について</p>																																
<p>重点目標</p>	<p>経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に就学援助費を支給し、児童生徒が平等に義務教育を受けられるよう支援します。 就学援助制度が、子どもに等しく義務教育を受けさせるという保護者の義務を補完するための制度である、という法の趣旨に則り、援助を必要とする保護者の状況を的確に把握して支援を実施します。</p> <p>【学校教育法第 19 条】 経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。</p>																																
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>市報、幼稚園・保育園、小・中学校、民生委員等を通じて制度の周知を図り、児童生徒数が減少する中、本援助の認定者数はここ数年横ばいで推移しており、24 年度は全児童生徒数(5/1 現在 3,237 人)に占める割合がついに 1 割を超えました。 申請書を変更し、申請時に予め保護者口座や代理領収の同意を得ておくなど、手続きの簡素化・効率化を図りました。 支給期(各学期末等)に、次表のとおり本援助費を支給しました。</p> <p style="text-align: right;">(単位:人、千円)</p> <table border="1" data-bbox="384 1081 1385 1346"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>人数</th> <th>給食費</th> <th>学用品費</th> <th>修学旅行費</th> <th>体育実技用具費</th> <th>医療費</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校 (9 校)</td> <td>201</td> <td>9,398</td> <td>2,969</td> <td>906</td> <td>1,316</td> <td>82</td> <td>14,671</td> </tr> <tr> <td>中学校 (6 校)</td> <td>131</td> <td>6,782</td> <td>3,509</td> <td>2,841</td> <td>1,161</td> <td>12</td> <td>14,305</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>332</td> <td>16,180</td> <td>6,478</td> <td>3,747</td> <td>2,477</td> <td>94</td> <td>28,976</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	人数	給食費	学用品費	修学旅行費	体育実技用具費	医療費	合 計	小学校 (9 校)	201	9,398	2,969	906	1,316	82	14,671	中学校 (6 校)	131	6,782	3,509	2,841	1,161	12	14,305	合 計	332	16,180	6,478	3,747	2,477	94	28,976
区 分	人数	給食費	学用品費	修学旅行費	体育実技用具費	医療費	合 計																										
小学校 (9 校)	201	9,398	2,969	906	1,316	82	14,671																										
中学校 (6 校)	131	6,782	3,509	2,841	1,161	12	14,305																										
合 計	332	16,180	6,478	3,747	2,477	94	28,976																										
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>本援助費が援助を必要としている家庭に行き届き、その目的に行使され、子どもの義務教育を受ける権利が保障されるよう、制度の周知を図っていく必要があります。 認定者が学校諸費を納付しない場合、申請時の代理領収への同意により、学校に本援助費を直接支給し、給食費等に未払いが生じないよう学校と綿密に連携を図っていく必要があります。 制度の公正性・公平性が保たれるよう、認定・支給事務に際しては、申請者の状況を学校や民生委員等を通じて正確に把握し、支援していかねばなりません。</p>																																
<p>【外部評価】</p>	<p>・申請書の変更による手続きの簡略化・効率化を図ったことは評価できます。また、認定にあたっては、困っている状況を発信できない家庭、保護者の状況把握等、きめ細やかな対応をお願いしたい。 ・生活保護受給世帯と連動するなど、申請者の状況を正確に把握する必要があることから、制度の公正性・公平性が保たれるようお願いしたい。</p>																																

平成 24 年度 実施事業等	小学校施設整備事業、中学校施設整備事業 ◎校舎等の耐震化と大規模改修について
重点目標	耐震補強工事等により、耐震性のない施設の耐震化を進めます。 老朽化した施設を改修することにより、教育内容の変化、バリアフリーや情報化等に対応した快適な施設整備を進めます。 また、災害時に学校施設は応急避難場所となるため、防災機能の強化についても併せて整備を進めます。
取組の状況 と 結果・成果	小学校3校と中学校2校の校舎、体育館について、耐震化及び大規模改修工事を実施しました。 耐震化工事により、耐震化率は前年の66.7%から71.0%に上昇しました。また、老朽改修により、清潔で快適な施設の提供に寄与しました。
課 題 及び 改善点	建築非構造部材(天井材や外壁等)の耐震化について、点検を実施し、必要に応じて対策を講ずる必要があります。 施設整備事業は多額な費用が必要なため、国庫補助や起債を利用できる計画立案が必要です。
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事等は、今後も災害に備えて計画的に進めていただきたい。 ・災害はいつ起こるかわからないので、目標年度に事業が完了するよう、更に施設整備の推進を図っていただきたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>井口小学校建設事業 ◎スケジュールと進捗状況等について</p>
<p>重点目標</p>	<p>井口小学校は昭和33年の建築で、建築から50年以上が経過している。建物は老朽化による劣化がみられ、また、耐震性能を有していないため、大規模地震による倒壊の恐れがある。学校の耐震性補強工事は平成27年度までとされており、早期の事業完了が必要である。</p> <p>学校は児童、教職員等が一日の大半を過ごす場所であり、校舎の耐震化、バリアフリー化、情報化対応など、子どもたちが快適に学ぶために安心・安全な学校施設の整備を進める。</p> <p>また、学校は地域のよりどころであり、災害時には避難所にもなるため、早期に耐震性のある建物への改築が必要である。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>井口小学校建設にあたり、平成23年度に地元関係者による井口小学校建設位置選定委員会が設置され、同年11月に建設位置について「具申書」が提出された。市はこれを受け、検討の結果、七日市新田地内を候補地として選定する。</p> <p>平成24年度から候補地の地権者と用地交渉を開始するも、事業に反対する地権者がいるなど難航している。</p> <p>今後速やかに交渉を進め、事業予定年度内の完了を目指す。</p> <p><今後の予定></p> <p>H25 用地買収、基本設計業務、税務署協議・農振除外・開発行為等諸手続き H26 実施設計業務、造成工事、道水路付替等付帯工事 H27～28 建設工事 H28.8 移転予定</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>用地交渉の難航により、丸1年、事業に遅れが生じており、これ以上事業が遅れることはできない。</p> <p>地権者の同意が得られたとしても、地元地域、保護者等の関係者協議や各種手続き等の調整において、時間を要することが考えられる。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・計画を進めるに当たって、地権者、保護者等との調整があるが、速やかに進めていただきたい。</p> <p>・今後も相当な困難が予想されるが、学区再編の整理、地元説明、市民への現状報告等、丁寧な説明を心掛けていく必要がある。</p>

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>地区公民館講座教室事業 ◎各地区公民館の講座教室事業の実施について</p>																		
<p>重点目標</p>	<p>地域住民の身近な生涯学習拠点として、各種講座教室、講演会等を開催し、社会教育法の目指すところである、市民の教養の向上、生活文化の振興を促進することを目的に活動しています。</p>																		
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>各地区公民館において、ふるさと講座など地域の特色を生かした講座や教養講座・健康教室など、市民の生きがいづくりと生活文化の向上に資する事業を実施しました。各地区の公民館が有機的なつながりを持つことにより、一体感があり相乗効果が生まれるような対応を進めました。事業効果の検証や見直しのため実施しているアンケートでは、参加者のニーズに答えていることが確認できました。また、地域医療魚沼学校や地域コミュニティと連携した事業を展開し、地域社会の課題解決・活性化を支援しました。</p> <table border="1" data-bbox="368 837 1406 1361"> <thead> <tr> <th>公民館</th> <th>参加人数(延べ)</th> <th>主な事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堀之内</td> <td>977</td> <td rowspan="8"> ・主な講座教室事業： ふるさと歴史講座、郷土料理教室、陶芸教室、茶道教室、スノーシュートレッキング教室、ヨガ教室、高齢者大学、健康体操教室、子ども工作教室、映写会ほか ・その他： 公民館だより発行、地域スポーツ大会(自治会連携)、コミュニティまつり(コミ協連携)、かるた・囲碁・将棋等大会、各種講演会(地域医療魚沼学校等連携)、演奏会、ギャラリー展示ほか </td> </tr> <tr> <td>小出北部</td> <td>634</td> </tr> <tr> <td>伊米ヶ崎</td> <td>939</td> </tr> <tr> <td>湯之谷</td> <td>847</td> </tr> <tr> <td>広神</td> <td>876</td> </tr> <tr> <td>守門</td> <td>1,062</td> </tr> <tr> <td>入広瀬</td> <td>624</td> </tr> </tbody> </table>	公民館	参加人数(延べ)	主な事業	堀之内	977	・主な講座教室事業： ふるさと歴史講座、郷土料理教室、陶芸教室、茶道教室、スノーシュートレッキング教室、ヨガ教室、高齢者大学、健康体操教室、子ども工作教室、映写会ほか ・その他： 公民館だより発行、地域スポーツ大会(自治会連携)、コミュニティまつり(コミ協連携)、かるた・囲碁・将棋等大会、各種講演会(地域医療魚沼学校等連携)、演奏会、ギャラリー展示ほか	小出北部	634	伊米ヶ崎	939	湯之谷	847	広神	876	守門	1,062	入広瀬	624
公民館	参加人数(延べ)	主な事業																	
堀之内	977	・主な講座教室事業： ふるさと歴史講座、郷土料理教室、陶芸教室、茶道教室、スノーシュートレッキング教室、ヨガ教室、高齢者大学、健康体操教室、子ども工作教室、映写会ほか ・その他： 公民館だより発行、地域スポーツ大会(自治会連携)、コミュニティまつり(コミ協連携)、かるた・囲碁・将棋等大会、各種講演会(地域医療魚沼学校等連携)、演奏会、ギャラリー展示ほか																	
小出北部	634																		
伊米ヶ崎	939																		
湯之谷	847																		
広神	876																		
守門	1,062																		
入広瀬	624																		
<p>課題 及び 改善点</p>	<p>地区館ごとに、様々な形で他機関や地域コミュニティとの連携事業を多数実施することができましたが、地域づくりの実践活動と連携するような仕組みを構築しているとまでは言えません。今後は地域コミュニティとの連携がますます重要になると思われるので、地域の課題解決や取組み手法の啓発などの支援を通じて、地域の活性化に貢献する事業の展開を進めていきます。</p>																		
<p>【外部評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区毎に、身近な場所で、教養講座、体験教室などに参加することにより、住民の文化教養を高めていける取組みは評価できます。 ・限られた予算の中、市民が気軽に参加でき、市民の生きがい、楽しみに役立っていることは評価できます。 ・終了後アンケートによりニーズを検討し、新たな講座や教室を開設するなどを視野に入れ、参加者の掘り起こしにつなげていただきたい。 ・コミ協との連携事業を市内全域に展開していくには時間を要するが、地区公民館としての役割を明確にし、地域との関りを積極的に進め、コミ協連携事業への理解を深めながら相互のつながりをさらに強める取り組みをお願いしたい。 																		

平成 24 年度 実施事業等	うおぬま市民大学事業 ◎大規模講演会の開催について
重点目標	生涯学習の機会を「誰でも・いつでも」提供できる事業として「うおぬま市民大学」事業に取り組みます。市民の皆さん誰もが余暇を活用して、楽しく学べるよう講演会講座に加え、より深く詳しく学び、学んだことを積極的に地域に生かすことができるような体制や仕組みづくりを構築します。
取組の状況 と 結果・成果	<p>年間3回の大規模講演会として、多くの市民が学習する場として活用できるよう学習機会の提供に努めました。</p> <p>第1回目のテーマは、昨年度のアンケート結果から私達の住む郷土に対する関心が高まりを反映した内容とし「地域の再発見」としました。講師は、文化財保護審議会会長である山之内喜七氏から、普段何気なく見ている地域の史跡、石仏、文化財などを見直すことを目的に、当市の石仏に代表される民間信仰について講演いただきました。</p> <p>第2回目のテーマは「戦争、原爆、平和」として、「世界がもし100人の村だったら」の著者で翻訳家である池田香代子さんを講師に招き、未来に向かって考えなければならない原発に依存した電力供給の在り方や平和、格差の問題についてもお話いただきました。また、非核平和都市宣言の具現化を目的として実施している「中学生広島平和記念式典派遣事業」で派遣した中学生の感想発表を兼ねて行いました。</p> <p>第3回のテーマは「感謝」として、「ありがとう作文」コンクールの表彰を兼ねて実施するとともに、僧侶であり医師でもある蒲原宏先生から「医者・坊主・南瓜ばなし～ありがとうの七五調人生～」と題して講演いただきました。会場内からは終始笑い声があふれ参加者から好評を得ました。</p> <p>地域の文化財や歴史などに興味を持ち、公民館の事業や生涯学習課の歴史講座などへの参加につながりました。</p>
課 題 及び 改善点	<p>参加者数の増加に向けては、単独での事業実施でなく老人クラブ連合会、PTA連絡協議会、青少年健全育成市民会議などの他団体からの後援を受けて事業に取り組んでいます。また、幅広い世代から参加いただくため、保育ルームの設置などに取り組んでいます。年齢層に偏りが生じています。引き続き、参加者のニーズに合致した魅力的なテーマでの開催や周知方法の工夫にも取り組んでいく必要があります。</p> <p>参加者自らの継続的な生涯学習活動により、事業のサークル化や講座の講師が育成されるような形が望ましいと考えます。</p>
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回が中学生広島平和記念式典派遣事業での参加中学生の感想発表、第3回が「ありがとう作文」コンクールの表彰と連動していることは、広く参加者を集める工夫となっていて評価できます。 ・他団体の後援を受け、3回開催された講演会が、それぞれにおいて好評であったことは評価できます。 ・年代によって、ニーズも異なる中、限られた予算で魅力ある講演会にするために、講師の選定が重要である。 ・年齢層の偏りなど課題もあるが、事業内容の検証と分析を実施し、今後の指導者育成につながる公民館事業となっていくようお願いしたい。

平成 24 年度 実施事業等	宮柁二記念館運営事業 ◎宮柁二記念館事業について																																				
重点目標	魚沼市が輩出した昭和歌壇を代表する歌人宮柁二(名誉市民)に関する資料を収集、保管及び展示公開してその活用を図り、市民及び郷土の文化の向上に資するとともに、広く短歌の研究とその普及に寄与することを目指します。																																				
取組の状況 と 結果・成果	<p>宮柁二記念館では年に一度展示替えを行っており、24年度は宮柁二生誕100年と記念館開館20周年を記念して、100にこだわった「宮柁二の遺産100選」として、選りすぐりの資料100点を紹介し、誘客を図りました。入館者は昨年より増加しました。また、宮柁二夫人の宮英子氏及びコスモス短歌会有志の皆様から寄附をいただき、魚沼市宮柁二記念館運営基金条例を設置し、宮柁二記念館の事業運営への有効活用を図りました。</p> <p>短歌文化の普及・促進のため、第18回となる全国短歌大会、年9回の短歌教室、講演会などを実施しました。全国短歌大会については、過去最高の応募作品数(11,000首)となりました。</p> <p>年間入館者等状況 887人 年間事業開催状況</p> <table border="1" data-bbox="419 929 1370 1489"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内 容</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月26日</td> <td>「宮柁二の遺産 100 選」展オープンセレモニー 記念講演 講師 武田弘之氏</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>5月26日～6月24日</td> <td>「記念館企画展 20年の歩み」展</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6月30日～9月2日</td> <td>第17回全国短歌大会ジュニア部門特別賞展</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>7月22日</td> <td>講演会「『多く夜の歌』を巡って」講師 岡崎康行氏</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>8月24日</td> <td>ジュニア短歌教室講師 宮柁二記念館短歌教室司会者</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>9月6日</td> <td>宮柁二記念館サロン・コンサート</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>10月6日～10月21日</td> <td>第17回名筆展「文人歌人名筆展」</td> <td>130人</td> </tr> <tr> <td>11月18日</td> <td>第18回宮柁二記念館全国短歌大会</td> <td>300人</td> </tr> <tr> <td>11月18日～12月20日</td> <td>第18回短歌大会選者・ジュニア部門特別賞受賞者展</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1月20日</td> <td>短歌セミナー 講師 田宮朋子氏</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>2月9日～2月28日</td> <td>「うおぬま旅 思い出短歌」応募作品展</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内 容	来場者数	5月26日	「宮柁二の遺産 100 選」展オープンセレモニー 記念講演 講師 武田弘之氏	80人	5月26日～6月24日	「記念館企画展 20年の歩み」展	—	6月30日～9月2日	第17回全国短歌大会ジュニア部門特別賞展	—	7月22日	講演会「『多く夜の歌』を巡って」講師 岡崎康行氏	31人	8月24日	ジュニア短歌教室講師 宮柁二記念館短歌教室司会者	12人	9月6日	宮柁二記念館サロン・コンサート	42人	10月6日～10月21日	第17回名筆展「文人歌人名筆展」	130人	11月18日	第18回宮柁二記念館全国短歌大会	300人	11月18日～12月20日	第18回短歌大会選者・ジュニア部門特別賞受賞者展	—	1月20日	短歌セミナー 講師 田宮朋子氏	30人	2月9日～2月28日	「うおぬま旅 思い出短歌」応募作品展	—
開催日	内 容	来場者数																																			
5月26日	「宮柁二の遺産 100 選」展オープンセレモニー 記念講演 講師 武田弘之氏	80人																																			
5月26日～6月24日	「記念館企画展 20年の歩み」展	—																																			
6月30日～9月2日	第17回全国短歌大会ジュニア部門特別賞展	—																																			
7月22日	講演会「『多く夜の歌』を巡って」講師 岡崎康行氏	31人																																			
8月24日	ジュニア短歌教室講師 宮柁二記念館短歌教室司会者	12人																																			
9月6日	宮柁二記念館サロン・コンサート	42人																																			
10月6日～10月21日	第17回名筆展「文人歌人名筆展」	130人																																			
11月18日	第18回宮柁二記念館全国短歌大会	300人																																			
11月18日～12月20日	第18回短歌大会選者・ジュニア部門特別賞受賞者展	—																																			
1月20日	短歌セミナー 講師 田宮朋子氏	30人																																			
2月9日～2月28日	「うおぬま旅 思い出短歌」応募作品展	—																																			
課 題 及び 改善点	<p>今後とも、子どもたちをはじめ、多くの市民から宮柁二を知っていただき、ふるさと魚沼をさらに誇れるように、入館者の増加を目指し、宮柁二の業績や貴重な資料が保存される記念館の意義を、市内外へと周知させていく働きかけを行います。また、短歌文化の普及のため、全国短歌大会などを通して、子どもたちを含む将来世代の育成を目指します。</p> <p>25年度にはコスモス短歌会や市内の諸団体等と協力して、相乗効果を発揮できるような事業の実施に努めます。</p>																																				
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・全国短歌大会応募作品数が過去最高になったことは、短歌文化の普及に貢献していることであり評価できます。 ・記念館の来場者増加にむけて、あらゆる機会を利用して記念館の存在を広報してもらいたい。 ・「魚沼市宮柁二記念館運営基金条例」を設置したことによる事業促進を図っていく必要がある。 ・他施設との均衡もあるが、入館者増加を図るため「入館料無料の日」や「小中高生無料」等を検討してもらいたい。 																																				

平成 24 年度 実施事業等	図書館管理運営事業 ◎図書サービスの充実について																																																																																		
重点目標	各種読書推進事業の実施により、図書館の利用が促進されるように努めます。図書館は生涯学習の拠点となる重要な施設であるため、一層の充実を図り、市民から親しまれる図書館づくりを目指します。																																																																																		
取組の状況 と 結果・成果	1.貸出サービス ①年間利用人数 <table border="1" data-bbox="375 517 1390 651"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">図書館</th> <th colspan="3">公民館図書室</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>小出郷</th> <th>広神</th> <th>堀之内</th> <th>守門</th> <th>入広瀬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>30,055</td> <td>13,569</td> <td>7,107</td> <td>1,666</td> <td>1,131</td> <td>53,528</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>28,100</td> <td>14,911</td> <td>6,132</td> <td>1,698</td> <td>1,056</td> <td>51,897</td> </tr> </tbody> </table> ②年間貸出冊数 <table border="1" data-bbox="375 685 1390 819"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">図書館</th> <th colspan="3">公民館図書室</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>小出郷</th> <th>広神</th> <th>堀之内</th> <th>守門</th> <th>入広瀬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>85,017</td> <td>41,148</td> <td>19,152</td> <td>4,246</td> <td>3,085</td> <td>152,648</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>80,807</td> <td>47,259</td> <td>16,947</td> <td>3,944</td> <td>2,959</td> <td>151,916</td> </tr> </tbody> </table> 2.児童サービスなどの各種行事や学校連携 ①図書館では、各地域で読み聞かせを行っています。取組状況と参加者(保護者含む)は下記のとおりです。 <table border="1" data-bbox="394 925 1377 1317"> <thead> <tr> <th>会 場</th> <th>名 称</th> <th>日時</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入広瀬こどもの家</td> <td>おはなし読んで!</td> <td>春、夏、秋の第1金曜日 15:45~(夏は19:30~)</td> <td>3回</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>守門開発センター</td> <td>おはなし読んで!</td> <td>春、夏、秋の特定の土曜日 10:30~(夏は19:30~)</td> <td>3回</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>湯之谷児童館</td> <td>おはなしがいっぱい!スペシャル</td> <td>夏、秋、冬の第4土曜日 10:30~</td> <td>2回</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>小出郷図書館</td> <td>おはなしがいっぱい!(小学生以下対象)</td> <td>毎月第2土曜日 11:00~</td> <td>11回</td> <td>166人</td> </tr> <tr> <td>小出郷図書館</td> <td>だっこでおはなし(乳幼児対象)</td> <td>毎月第4金曜日 10:30~</td> <td>12回</td> <td>126人</td> </tr> </tbody> </table> ②スタンプラリー、雑誌リサイクル市、人形劇などの事業を実施し、本への親しみや読書の定着を推奨しました。中でも、絵本作家を招いて開催した絵本ライブは119人が参加し、大勢の親子が読み聞かせなどを楽しみました。 ③学校や保育園などから、432人の図書館見学や職場体験を受け入れ、また学校や保育園へ出張し、延べ661人に読み聞かせを行いました。	年度	図書館		公民館図書室			計	小出郷	広神	堀之内	守門	入広瀬	24	30,055	13,569	7,107	1,666	1,131	53,528	23	28,100	14,911	6,132	1,698	1,056	51,897	年度	図書館		公民館図書室			計	小出郷	広神	堀之内	守門	入広瀬	24	85,017	41,148	19,152	4,246	3,085	152,648	23	80,807	47,259	16,947	3,944	2,959	151,916	会 場	名 称	日時	回数	参加者数	入広瀬こどもの家	おはなし読んで!	春、夏、秋の第1金曜日 15:45~(夏は19:30~)	3回	29人	守門開発センター	おはなし読んで!	春、夏、秋の特定の土曜日 10:30~(夏は19:30~)	3回	14人	湯之谷児童館	おはなしがいっぱい!スペシャル	夏、秋、冬の第4土曜日 10:30~	2回	16人	小出郷図書館	おはなしがいっぱい!(小学生以下対象)	毎月第2土曜日 11:00~	11回	166人	小出郷図書館	だっこでおはなし(乳幼児対象)	毎月第4金曜日 10:30~	12回	126人
年度	図書館		公民館図書室			計																																																																													
	小出郷	広神	堀之内	守門	入広瀬																																																																														
24	30,055	13,569	7,107	1,666	1,131	53,528																																																																													
23	28,100	14,911	6,132	1,698	1,056	51,897																																																																													
年度	図書館		公民館図書室			計																																																																													
	小出郷	広神	堀之内	守門	入広瀬																																																																														
24	85,017	41,148	19,152	4,246	3,085	152,648																																																																													
23	80,807	47,259	16,947	3,944	2,959	151,916																																																																													
会 場	名 称	日時	回数	参加者数																																																																															
入広瀬こどもの家	おはなし読んで!	春、夏、秋の第1金曜日 15:45~(夏は19:30~)	3回	29人																																																																															
守門開発センター	おはなし読んで!	春、夏、秋の特定の土曜日 10:30~(夏は19:30~)	3回	14人																																																																															
湯之谷児童館	おはなしがいっぱい!スペシャル	夏、秋、冬の第4土曜日 10:30~	2回	16人																																																																															
小出郷図書館	おはなしがいっぱい!(小学生以下対象)	毎月第2土曜日 11:00~	11回	166人																																																																															
小出郷図書館	だっこでおはなし(乳幼児対象)	毎月第4金曜日 10:30~	12回	126人																																																																															
課 題 及び 改善点	平成 23~24 年度は住民生活に光をそそぐ交付金を活用して、蔵書の増加を図ったこと、また小出郷図書館が移転したことにより、利用者人数などは順調に増えていましたが、交付金も終了したため、今後、蔵書数や利用者人数はゆるやかな増加となっていくことが予想されます。 しかし、地域の情報センターとして市民から活用いただくため、今後は蔵書の質を高め、新たな行事などを実施し、サービスの向上を図っていきます。																																																																																		
【外部評価】	・各地域、学校、保育園に出向いての読み聞かせ、絵本ライブの実施など、本への親しみの機会、親子の関わりに貢献したことは評価できます。今後も利用しやすい図書館、親しみやすい図書館であって欲しい。 ・利用者増にむけて、従来の図書館運営にとらわれず、展示コーナー、閲覧コーナーなどの工夫をしてもらいたい。																																																																																		

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>ブックスタート推進事業</p>
<p>重点目標</p>	<p>1歳の誕生日を迎えた子どもとその保護者に絵本を手渡しするブックスタート事業では、社会的に活字離れが懸念される中、親子で絵本を開く楽しさを体験し、読書に対する関心を持ってもらうことを目標とします。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>事業の定着が見られ、ブックスタートの時に手渡す布バッグを持った親子連れが小出郷図書館などへ数多く来館するようになっていきます。また、ボランティアの参加(延べ 63 人)により絵本を介した地域における子育て支援にも繋がっています。</p> <p>平成24年度は対象親子 236 組の 90%に当たる 214 組の親子に絵本を手渡すことができました。</p> <p>また、図書館に来館される保護者に積極的に声を掛けたり、健康増進室の「パパママ準備教室」で、これから生まれてくる赤ちゃんの保護者にリーフレットを渡したりして、ブックスタート事業の周知を図っています。</p> <p>子育て支援センターで実施することにより、双方からの情報提供などの連携ができ、相乗効果が生まれました。</p>
<p>課 題 及び 改 善 点</p>	<p>他課で実施する乳幼児健診などの関連事業の場を借りた効果的な事業実施や宣伝の実現について、模索をしましたが、事業効果の低減要素もあることから実施は困難でした。</p> <p>現在、対象者へ直接ハガキを送付して参加を促していますが、さらに事業周知を図るため、今後もできる範囲で引続き他課との連携や協力を要請していきます。</p> <p>また、周知手法もホームページなどを用い、工夫を図っていきます。</p>
<p>【外部評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の定着と子育て支援につながっていることは評価できます。 ・1歳の誕生日後、絵本を手渡しで母子に贈るというユニークな事業で、図書館利用のきっかけともなり評価できます。今後も継続していただきたい。 ・事業の周知方法は、いろいろな機会を活用し、実施していただきたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>青少年教育事業 ◎わくわく体験クラブについて ◎学校・家庭・地域の連携促進事業(放課後子ども教室事業、学校支援地域本部事業)について ◎中学生広島平和記念式典派遣事業について</p>
<p>重点目標</p>	<p>青少年健全育成事業へ参加し、社会についての知識を深めることにより、青少年が健やかに成長することを目指します。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>青少年の健全育成、地域の方が子どもたちを支援する体制づくりなどを目指して各種事業を実施しました。 ○わくわく体験クラブ 青少年の自然体験活動を通じて健全な成長を目指して実施しました。自然体験、ものづくり体験、コミュニケーション体験などの9回の体験活動を通じて昨年度よりも参加数を増加することができました。 ○学校・家庭・地域の連携促進事業(放課後子ども教室、学校支援地域本部) 放課後の子どもたちの居場所づくりを目的として実施しており、昨年度に比べ参加者が約2割程度増加し延べ4,000人を越える子どもが参加しました。また、地域全体で学校教育を支援する仕組みの構築などを通じて、地域全体で教育力の向上のため、学校支援地域本部を組織して学校を支援する体制づくりを目指しました。地域のコーディネーターを中心に、多くのボランティアの参加を得ながら取り組みました。 ○中学生広島平和記念式典派遣事業 非核平和都市宣言に基づき、中学生が平和大使として広島平和記念式典に参加し平和の大切さなどについて学んでいます。さらに事業効果を高めるために、9/27うおぬま市民大学での発表や市報うおぬまへの掲載を通じて、市民の方々に平和のメッセージを伝えました。</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>青少年の健全育成には、子どもたちを取り巻く社会環境を十分配慮しながら各種の事業実施が必要となります。 現在、有害情報の氾濫、放課後の居場所づくり、自然体験の不足、二つ・引きこもり、就労難などの様々な問題が発生しています。自然体験の不足の解決のためにわくわく体験クラブを開催しており、放課後の居場所づくりに関しては、放課後児童クラブ(学童)との連携について検討を進める必要があります。また、学校支援地域本部についても他の学校区へ拡大していく必要があります。このような課題に対応するためには、ある特定の分野の努力のみでは解決が難しく、広範な立場の大人たちが本事業に関わり、地域で青少年を支える意識づくりを行うとともに、既存の団体間のネットワーク化体制に取り組む必要があります。 中学生の平和式典への派遣事業をひとつのきっかけとして、戦争の悲惨さや平和の大切さについての啓発を図り、継続していく必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・わくわく体験クラブについては、子どもと親が自然体験活動等に親しむきっかけとなり評価できます。今後も事業受託先との連携を密にし、より多くの児童が楽しく参加でき、新しい発見、体験につながっていくように、より一層、事業検証と環境整備の充実をお願いしたい。 ・学校・家庭・地域の連携促進事業について、放課後子ども教室は、校舎内の空き教室を利用することで、場所の移動もなく時間もかからないので安心して参加できる取り組みであるが、放課後児童クラブとの連携、すみ分け等を整理する必要がある。 また、学校支援地域本部は、地域のコーディネーターやボランティアの参加協力を得ている取り組みは評価できます。今後も市内全域に事業が定着するには時間を要するが、先進地事例に学ぶなど、子どもたち、保護者が安心できる体制づくりをお願いしたい。 ・中学生広島平和記念式典派遣事業については、多感な中学生の時期に、各校の代表者が参加することで、体験発表などで波及効果もあり評価できます。今後も事業の発展的継続をお願いしたい。</p>

平成 24 年度 実施事業等	目黒邸屋根葺き替え事業 ◎国重要文化財「目黒邸」茅葺屋根の葺き替え及び諸工事について
重点目標	国重要文化財「目黒邸」の茅葺屋根の葺き替え、及び石動社の解体修理を3年計画で行い、地域に受け継がれてきた文化財の保護に努めるとともに、文化財の有効活用を図り、文化財愛護の意識を高めます。
取組の状況 と 結果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒邸の主に背面の屋根、418㎡の茅葺屋根の葺き替えが完了しました。 ・傷みのひどかった石動社の解体に伴って調査をし、建立当時の様子が判明しました。その結果、復元の見通しがついたため、文化庁から現状変更の許可を受け、平成25年度で復元することとなりました。 ・地域の文化財を保護する意識を醸成することを目的に、茅刈り体験事業を企画しましたが、申込者が少なかったため中止としました。これは、雪降り前の多忙な時期であり、雨が多い時期でもあったことが影響したと思われます。
課 題 及び 改 善 点	<p>平成26年度までの工事については、スケジュール管理を的確に行い、無事に完了させる必要があります。</p> <p>茅を集める作業をとおし、地域の文化財を大切にすること意識も育つと考えられます。茅刈り体験作業を企画して、多くの方に参加してもらうよう働きかけます。</p> <p>今回、事業費の35%は目黒邸保存基金を取り崩したものです。約15年後に行われる次回の葺き替えのためにも、財政面の措置をしていく必要があります。</p> <p>目黒邸と同様に貴重な文化財である「佐藤家」の茅葺屋根葺き替えについても、計画化していく必要があります。</p>
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も相当な維持管理経費を要するが、計画的な管理運営に努めていただきたい。 ・国の重要文化財であり、引き続き文化財の保護、有効活用を努めていただきたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>競技スポーツ支援事業 ◎ジュニアスポーツ支援と、指導者育成について</p>																																																								
<p>重点目標</p>	<p>各種大会参加経費軽減、競技スポーツの充実、発展のための支援と指導者の充実に目指す。</p>																																																								
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアスポーツ支援 市有バス等運転業務事業(大会参加旅費支援) 利用回数:98回 2,072千円 ・各種大会参加への旅費軽減の支援 高位大会(全国大会以上)激励金交付 交付人数:52人 900千円 ・各種スポーツ大会の開催(魚沼市体育協会へ委託) 350千円 <table border="1" data-bbox="384 680 1406 1301"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小出郷卓球大会</td> <td>H24.6.3</td> <td>小出郷総合体育館</td> <td>350人</td> </tr> <tr> <td>魚沼市少年柔道大会</td> <td>H24.6.9</td> <td>小出武道館</td> <td>20チーム 80人</td> </tr> <tr> <td>魚沼市剣道大会</td> <td>H24.10.7</td> <td>広神体育センター</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>市陸上記録会</td> <td>H24.7.5</td> <td>十日町市陸上競技場</td> <td>392人</td> </tr> <tr> <td>元旦マラソン(堀之内・広神)</td> <td>H25.1.1</td> <td>堀之内公民館ほか</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>下条テニス教室</td> <td>H24.6~10</td> <td>下条テニスコート</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>インドアソフトテニス大会</td> <td>H25.2.3</td> <td>堀之内体育館</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>魚沼市母子ソフトボール大会</td> <td>H24.8.26</td> <td>広神東小学校</td> <td>4チーム 48人</td> </tr> <tr> <td>守門岳・月岡山開き</td> <td>H24.6.10 ほか</td> <td>守門岳・月岡</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>かんじきトレッキング</td> <td>H25.1.6</td> <td>大力山</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>少年少女スキー教室</td> <td>H25.1~2</td> <td>薬師スキー場ほか</td> <td>56人</td> </tr> <tr> <td>コスモジャンプ大会</td> <td>H24.10.7</td> <td>小出公園ジャンツェ</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">総参加者数</td> <td>1,226人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスカントリースキー大会 市内小学生 390人 ・寿和温泉水泳教室 51人 延べ390人 	事業名	期日	会場	参加者	小出郷卓球大会	H24.6.3	小出郷総合体育館	350人	魚沼市少年柔道大会	H24.6.9	小出武道館	20チーム 80人	魚沼市剣道大会	H24.10.7	広神体育センター	43人	市陸上記録会	H24.7.5	十日町市陸上競技場	392人	元旦マラソン(堀之内・広神)	H25.1.1	堀之内公民館ほか	91人	下条テニス教室	H24.6~10	下条テニスコート	27人	インドアソフトテニス大会	H25.2.3	堀之内体育館	15人	魚沼市母子ソフトボール大会	H24.8.26	広神東小学校	4チーム 48人	守門岳・月岡山開き	H24.6.10 ほか	守門岳・月岡	50人	かんじきトレッキング	H25.1.6	大力山	29人	少年少女スキー教室	H25.1~2	薬師スキー場ほか	56人	コスモジャンプ大会	H24.10.7	小出公園ジャンツェ	45人	総参加者数			1,226人
事業名	期日	会場	参加者																																																						
小出郷卓球大会	H24.6.3	小出郷総合体育館	350人																																																						
魚沼市少年柔道大会	H24.6.9	小出武道館	20チーム 80人																																																						
魚沼市剣道大会	H24.10.7	広神体育センター	43人																																																						
市陸上記録会	H24.7.5	十日町市陸上競技場	392人																																																						
元旦マラソン(堀之内・広神)	H25.1.1	堀之内公民館ほか	91人																																																						
下条テニス教室	H24.6~10	下条テニスコート	27人																																																						
インドアソフトテニス大会	H25.2.3	堀之内体育館	15人																																																						
魚沼市母子ソフトボール大会	H24.8.26	広神東小学校	4チーム 48人																																																						
守門岳・月岡山開き	H24.6.10 ほか	守門岳・月岡	50人																																																						
かんじきトレッキング	H25.1.6	大力山	29人																																																						
少年少女スキー教室	H25.1~2	薬師スキー場ほか	56人																																																						
コスモジャンプ大会	H24.10.7	小出公園ジャンツェ	45人																																																						
総参加者数			1,226人																																																						
<p>課題 及び 改善点</p>	<p>競技力の向上を支援する体制を強化するにあたり、市体育協会と小体連・中体連との連携強化、また、総合型地域スポーツクラブとのさらなる連携を図る必要があります。また、全国的に地域特性を生かしたスポーツ活動が進められていますが、今後は魚沼の特性である雪を活用したウィンタースポーツ機会の確保が重要です。</p>																																																								
<p>【外部評価】</p>	<p>・少ない予算ではあるが、魚沼市のジュニアスポーツの発展のために魚沼市体育協会をはじめとして、各競技団体が熱意を持って取り組んでいたいへん評価できます。クロスカントリースキー大会は、準備、コース整備等たいへんではあるが、クロスカントリースキーを通じた自己実現に寄与しているものであり、底辺拡大のために継続充実してもらいたい。</p> <p>・スポーツは楽しいと思う事から始まる。保護者、地域、関係機関と連携し、子ども達の成長、発達段階に応じたスポーツ体験の場の提供、確保、指導者の支援育成をお願いしたい。</p>																																																								

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>市民スポーツ普及事業 ◎市民がスポーツに気軽に参加できる機会提供について</p>																																																																				
<p>重点目標</p>	<p>積極的に生活の中にスポーツを取り入れて、健康づくりや仲間作りにつながるような、市民が気軽に参加できるスポーツ機会を提供する。</p>																																																																				
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>・市民が気軽に参加できるスポーツ大会を魚沼市体育協会に委託し、15 種目で 33 種類の市民スポーツフェスティバル事業を開催しました。</p> <table border="1" data-bbox="383 616 1412 1355"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期 日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野球大会 (5 地区予選会含む)</td> <td>H24.10.28ほか</td> <td>広神球場ほか</td> <td>67 チーム 947 人</td> </tr> <tr> <td>バレーボール大会 (混 9・ソフト・小学)</td> <td>H24.5.20ほか</td> <td>小出郷総合体育館ほか</td> <td>35 チーム 436 人</td> </tr> <tr> <td>卓球大会</td> <td>H24.12.23</td> <td>小出郷総合体育館</td> <td>141 人</td> </tr> <tr> <td>ロードレース大会</td> <td>H24.10.14</td> <td>湯之谷中学校周辺</td> <td>105 人</td> </tr> <tr> <td>バドミントン大会</td> <td>H24.6.17</td> <td>堀之内体育館</td> <td>62 人</td> </tr> <tr> <td>バスケットボール大会</td> <td>H24.7.29</td> <td>小出郷総合体育館ほか</td> <td>200 人</td> </tr> <tr> <td>スポーツフェスティバル in 月岡</td> <td>H24.9.23</td> <td>小出郷体育館</td> <td>32 人</td> </tr> <tr> <td>ゲートボール大会 (6 地区予選会含む)</td> <td>H24.10.19ほか</td> <td>広神野球場ほか</td> <td>83 チーム 513 人</td> </tr> <tr> <td>市民グランドゴルフ大会 (春・秋)</td> <td>H24.6.3ほか</td> <td>ユビオ跡</td> <td>84 人</td> </tr> <tr> <td>市民フットサル大会</td> <td>H24.11.25ほか</td> <td>堀之内体育館</td> <td>250 人</td> </tr> <tr> <td>ボウリング大会</td> <td>H24.12.9</td> <td>小出ミヤグランドボウル</td> <td>38 人</td> </tr> <tr> <td>市民登山</td> <td>H24.9.1~9.2</td> <td>鹿島槍ヶ岳</td> <td>26 人</td> </tr> <tr> <td>スカイスports体験会 (春・夏)</td> <td>H24.6.23ほか</td> <td>鷲倉山フライトエリアほか</td> <td>14 人</td> </tr> <tr> <td>バウンドテニス大会 (春・秋)</td> <td>H24.7.8ほか</td> <td>小出第一体育館ほか</td> <td>62 人</td> </tr> <tr> <td>市民ソフトテニス大会 (春・秋)</td> <td>H24.7.22ほか</td> <td>月岡公園テニスコート</td> <td>148 チーム 296 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">総参加者数</td> <td>3,206 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・スポーツカレンダーの市内全世帯配布</p>	事業名	期 日	会 場	参加者数	野球大会 (5 地区予選会含む)	H24.10.28ほか	広神球場ほか	67 チーム 947 人	バレーボール大会 (混 9・ソフト・小学)	H24.5.20ほか	小出郷総合体育館ほか	35 チーム 436 人	卓球大会	H24.12.23	小出郷総合体育館	141 人	ロードレース大会	H24.10.14	湯之谷中学校周辺	105 人	バドミントン大会	H24.6.17	堀之内体育館	62 人	バスケットボール大会	H24.7.29	小出郷総合体育館ほか	200 人	スポーツフェスティバル in 月岡	H24.9.23	小出郷体育館	32 人	ゲートボール大会 (6 地区予選会含む)	H24.10.19ほか	広神野球場ほか	83 チーム 513 人	市民グランドゴルフ大会 (春・秋)	H24.6.3ほか	ユビオ跡	84 人	市民フットサル大会	H24.11.25ほか	堀之内体育館	250 人	ボウリング大会	H24.12.9	小出ミヤグランドボウル	38 人	市民登山	H24.9.1~9.2	鹿島槍ヶ岳	26 人	スカイスports体験会 (春・夏)	H24.6.23ほか	鷲倉山フライトエリアほか	14 人	バウンドテニス大会 (春・秋)	H24.7.8ほか	小出第一体育館ほか	62 人	市民ソフトテニス大会 (春・秋)	H24.7.22ほか	月岡公園テニスコート	148 チーム 296 人	総参加者数			3,206 人
事業名	期 日	会 場	参加者数																																																																		
野球大会 (5 地区予選会含む)	H24.10.28ほか	広神球場ほか	67 チーム 947 人																																																																		
バレーボール大会 (混 9・ソフト・小学)	H24.5.20ほか	小出郷総合体育館ほか	35 チーム 436 人																																																																		
卓球大会	H24.12.23	小出郷総合体育館	141 人																																																																		
ロードレース大会	H24.10.14	湯之谷中学校周辺	105 人																																																																		
バドミントン大会	H24.6.17	堀之内体育館	62 人																																																																		
バスケットボール大会	H24.7.29	小出郷総合体育館ほか	200 人																																																																		
スポーツフェスティバル in 月岡	H24.9.23	小出郷体育館	32 人																																																																		
ゲートボール大会 (6 地区予選会含む)	H24.10.19ほか	広神野球場ほか	83 チーム 513 人																																																																		
市民グランドゴルフ大会 (春・秋)	H24.6.3ほか	ユビオ跡	84 人																																																																		
市民フットサル大会	H24.11.25ほか	堀之内体育館	250 人																																																																		
ボウリング大会	H24.12.9	小出ミヤグランドボウル	38 人																																																																		
市民登山	H24.9.1~9.2	鹿島槍ヶ岳	26 人																																																																		
スカイスports体験会 (春・夏)	H24.6.23ほか	鷲倉山フライトエリアほか	14 人																																																																		
バウンドテニス大会 (春・秋)	H24.7.8ほか	小出第一体育館ほか	62 人																																																																		
市民ソフトテニス大会 (春・秋)	H24.7.22ほか	月岡公園テニスコート	148 チーム 296 人																																																																		
総参加者数			3,206 人																																																																		
<p>課 題 及び 改 善 点</p>	<p>スポーツフェスティバルは、市民のスポーツ活動の場を提供してきましたが、今後は、参加者が定期的な運動習慣を身につけ、定期スポーツ活動人数の増加につながるようにするため、魅力あるプログラムの提供とともに、活動組織への支援が重要です。</p>																																																																				
<p>【外部評価】</p>	<p>・スポーツ大会を契機として、スポーツに向かう姿勢、定期的な運動習慣に少しでも貢献していると評価できます。定期的な運動習慣は、健康維持、疾病予防にもつながり、さらなる参加者増に向けて工夫していただきたい。</p> <p>・機会、場の提供だけではなく、事業終了後には全ての事業検証を実施し、次年度へ反映させる必要がある。多くの市民がスポーツに関心を持ち参加したいと思える事業内容とするため、体育協会とのさらなる連携強化をお願いしたい。</p>																																																																				

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>健康づくりスポーツ普及事業 ◎スポーツによる健康増進と体力づくりの推進について</p>																																																												
<p>重点目標</p>	<p>運動習慣の減少や、中高齢者の生きがい作りなどにスポーツによる健康増進と体力づくりの推進を目指す</p>																																																												
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>長期的な視点でスポーツ振興に関して専門知識を持つ人材をかかえ技術的な蓄積がある総合型地域スポーツクラブに各種運動教室やウォーキングイベント、体力測定会といった企画を委託することで、多様な市民ニーズにあった事業展開ができ、また、一層の行政のスリム化を進めることができました。また、会場への参加が困難な市民のために出前教室を開催し好評を得ました。</p> <p>昨年度に引き続き、市内の年長児を対象とした、未就学児運動教室を開催しました。身体能力を発達させるための運動を遊びの中に取り入れ、子供たちに運動する場を提供しました。</p> <p>15 教室 561 回 8,039 人</p> <table border="1" data-bbox="384 931 1375 1375"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> <th>事業名</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キックエクササイズ教室</td> <td>43回</td> <td>581人</td> <td>健康運動教室</td> <td>72回</td> <td>828人</td> </tr> <tr> <td>ヒップホップダンス教室</td> <td>46回</td> <td>603人</td> <td>健康運動教室(出前)</td> <td>16回</td> <td>237人</td> </tr> <tr> <td>小出エアロビクス教室</td> <td>47回</td> <td>821人</td> <td>桜づつみウォーキング</td> <td>1回</td> <td>129人</td> </tr> <tr> <td>広神エアロビクス教室</td> <td>46回</td> <td>392人</td> <td>体力測定会</td> <td>1回</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>堀之内エアロビクス教室</td> <td>46回</td> <td>707人</td> <td>放課後ひょんぴょん教室</td> <td>25回</td> <td>513人</td> </tr> <tr> <td>ウェイトトレーニング教室</td> <td>48回</td> <td>771人</td> <td>未就学児運動教室</td> <td>10回</td> <td>195人</td> </tr> <tr> <td>フリースポーツデー</td> <td>47回</td> <td>1,246人</td> <td>指導者派遣</td> <td>22回</td> <td>235人</td> </tr> <tr> <td>フットサル教室</td> <td>91回</td> <td>746人</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>総参加者数</td> <td>8,039人</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	回数	参加者数	事業名	回数	参加者数	キックエクササイズ教室	43回	581人	健康運動教室	72回	828人	ヒップホップダンス教室	46回	603人	健康運動教室(出前)	16回	237人	小出エアロビクス教室	47回	821人	桜づつみウォーキング	1回	129人	広神エアロビクス教室	46回	392人	体力測定会	1回	35人	堀之内エアロビクス教室	46回	707人	放課後ひょんぴょん教室	25回	513人	ウェイトトレーニング教室	48回	771人	未就学児運動教室	10回	195人	フリースポーツデー	47回	1,246人	指導者派遣	22回	235人	フットサル教室	91回	746人								総参加者数	8,039人
事業名	回数	参加者数	事業名	回数	参加者数																																																								
キックエクササイズ教室	43回	581人	健康運動教室	72回	828人																																																								
ヒップホップダンス教室	46回	603人	健康運動教室(出前)	16回	237人																																																								
小出エアロビクス教室	47回	821人	桜づつみウォーキング	1回	129人																																																								
広神エアロビクス教室	46回	392人	体力測定会	1回	35人																																																								
堀之内エアロビクス教室	46回	707人	放課後ひょんぴょん教室	25回	513人																																																								
ウェイトトレーニング教室	48回	771人	未就学児運動教室	10回	195人																																																								
フリースポーツデー	47回	1,246人	指導者派遣	22回	235人																																																								
フットサル教室	91回	746人																																																											
				総参加者数	8,039人																																																								
<p>課題 及び 改善点</p>	<p>年々参加者が増加していますが、生涯スポーツの振興と健康づくりの観点から各種事業の検証を十分に行い、様々な市民ニーズに応えるプログラムを柔軟に実施していく必要があります。</p> <p>健康、子育て分野とも連携しながら事業を実施することにより、年齢や性別に合った健康づくり事業を開拓していくことが必要です。</p>																																																												
<p>【外部評価】</p>	<p>・都市部に見られるスポーツジムの機能を果たしており、参加者が増加傾向であるという点で評価できます。今後、さらに参加者が増えるように魅力的なプログラムを開発していただきたい。</p> <p>・各種事業、出前教室、イベント等市民ニーズと合致した事業展開ができたことは評価できます。また、教室によって参加者が偏らないよう公平公正な配慮をするとともに、事業検証を実施し、人気教室は回数を増やすことも検討していただきたい。</p>																																																												

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>保育園、幼稚園管理運営事業</p>
<p>重点目標</p>	<p>保育園、幼稚園は、家庭や地域と協力しながら、楽しくあたたかい雰囲気の中で、明るくのびのびとした園児を育てることを目指すとともに、保育園・幼稚園と小・中学校との連携を軸として、途切れない支援をしていきます。 また、私立保育園、幼稚園設置者と連携を図るとともに支援をしていきます。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>①保育園は、公立保育園 9 施設における保育の実施のほか、私立保育園2施設及び市外保育園への委託による保育を実施しました。また、多様な保育サービスの提供を図るため、私立保育園が実施する未満児保育や延長休日保育等の特別保育事業に対する経費の補助を行いました。 ②幼稚園は、公立幼稚園 2 施設のほか、私立幼稚園1施設で実施しました。また、私立幼稚園が行う幼児教育の振興と園児の処遇の向上を目的とし、私立幼稚園の運営事業に要する経費に対し補助を行いました。 ③未就園児を対象とした体験保育を実施し、保護者から好評をいただきました。 ④子育て部門の一元化を図るため子ども課を教育委員会に配置し、保育(幼稚園)園長を保育に専念させたいため園長の事務負担を軽減したことにより、園長からは最も身近な子育て支援センターとしての機能を担うべく、育児相談等に努めております。</p>
<p>課題 及び 改善点</p>	<p>共働き世帯の増加により未満児保育の増加や正職員の削減に伴い、非常勤保育士の増員を余儀なく行っている状況であり、クラス担任を非常勤職員が担当するなど、保育の質や平等性の確保といった点が大きな課題です。また、公私立園を問わず、「気になる児」が増えており、その対応に苦慮しています。関係部署が協力し、必要な時期に適切な相談・支援が受けられるよう連携体制を整えていく必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・出産後、仕事を継続できる安心感が、共働き世帯の第2子、第3子の出産につながるものであり、保育園、幼稚園の特別保育事業に対する経費の補助は評価できます。 ・各種課題解決に向け、子育て部門の一元化による効果が発揮できる体制整備を図っていく必要がある。 ・「魚沼市で子育てしたい。」「保育園、幼稚園に入れたい。」と、思ってもらえるような環境整備に向け、関係機関、関係部署と連携強化していくことをお願いしたい。</p>

平成 24 年度 実施事業等	放課後児童クラブ再編事業 ◎小出北部つくしクラブの小出小学校内移転について ◎堀之内放課後児童クラブ移転に係る準備について ◎ひまわり学童の民間委託について
重点目標	学童保育は、少子化や女性の就労が増加する中、児童の健全な育成や仕事と子育てを両立するための支援を行います。
取組の状況 と 結果・成果	①小出子育て支援センター内で実施していた小出北部つくしクラブを、小出小学校内に移転することにより、児童の移動における利便と安全性を向上させることができました。また、学童で使用していた小出子育て支援センター室を特別支援教室等で有効活用することができ、子育て支援機能の一元化に向けた環境が整備されました。 ②堀之内子育て支援センターで行っている堀之内放課後児童クラブを、堀之内小学校敷地内の給食調理場の改築に併せて、2階部分に堀之内学童保育施設を併設し移転するため、利用者(保護者)と現場(指導員)のニーズを取りまとめ、基本設計に反映させました。 ③小出保育園が運営している放課後児童クラブ「ひまわり」を、本年度から市が運営委託することにより、子育て世代の就業支援を拡充することができました。
課 題 及び 改善点	休日保育や夜間の延長保育へのニーズに対する受け皿として、ひまわり学童への入所希望者が増えることが想定されることから、小出地区で児童数の不均衡が生じないよう調整を図る必要があります。また、堀之内子育て支援センター機能移転及び同センター解体について、地元や関係者等との意見を伺いながら丁寧に進めていく必要があります。
【外部評価】	・放課後児童クラブが、小出小学校内及び堀之内小学校敷地内に移転することにより、授業終了後の放課後児童クラブへの移動が、安心してスムーズにできるようになり評価できます。 ・放課後児童クラブ「ひまわり」は、市が運営委託する形になり子育て世代の就労支援となっていることは評価できます。 ・保護者が安心して児童を預けられる施設の充実と、再編事業の必要性を理解いただけるよう丁寧な説明をお願いしたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>子ども医療費助成事業</p>
<p>重点目標</p>	<p>児童の医療費の一部をその保護者に助成することにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、適切に診療が受けられ、安心して子育てができる環境整備に寄与します。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>① 小学生までの子どもを対象に、医療費の一部負担金(外来530円/1回、入院1,200円)を超える額を助成しました。 ② 平成24年9月からは対象者を拡大し、3子以上世帯について中学校卒業まで助成しました。</p> <p>H24年度 延べ受診者数 43,588人 助成額 67,341千円</p> <p>平成25年2月1日現在受給者数 4,019人</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>安心して子どもを産み育てる環境を整備するためにも、中学校卒業までの1、2子世帯の子どもについても、3子以上世帯の子どもと同様に制度を拡充する必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・少子化対策は、当該助成事業をはじめとした、いろいろなものが重なり合っただけで少しずつ効果が出てくると思われる。3子以上世帯について中学卒業まで対象者を拡大したことは、非常に助かる制度となっている点で評価できます。今後さらなる事業の拡充をお願いしたい。</p>

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>地域療育支援事業</p>
<p>重点目標</p>	<p>発達障害、またはその疑いのある幼児及びその保護者を支援するために、療育教室や園訪問事業を実施します。 また、保育士を対象とした研修会を実施し、発達障害への理解を深めます。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>① つくしプレイ教室(就園前の幼児対象) 2クラス、67回実施、延べ390人参加(実数27人) ② ステップアップ教室(年長児対象) 2クラス、32回実施、延べ235人参加(実数17人) ③ 保育園等訪問 10園、41回実施、対象児77名 ④ 情報交換 ・年度末に、つくしプレイ教室及びステップアップ教室卒児の様子を入園・入学予定の保育園・小学校へ情報提供に努めました。 ・年度当初に、園や学校と教室卒児の様子について情報交換しました。 ⑤ 研修会 第1回目は「問題行動と保護者との連携」講師:指導主事、第2回目は「園でできる支援～日々の生活の中で気をつけること」講師:言語聴覚士、第3回目は「気になる子どもの理解と支援～感覚統合の視点から」講師:作業療法士から講演をしていただきました。 3回の研修会を実施し、全ての保育士の参加とはなりませんが無理なく研修に参加できるよう配慮しました。</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>子どもの発達課題に対して、対象者の把握、支援方法について、保育園、指導主事、保健師、医療機関等と連携しながら支援活動を展開していく必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・成長段階に応じた支援の実施は評価できます。児に関する全ての関係者、関係部署、関係機関との更なる情報交換、協力体制の強化をお願いしたい。 ・発達障害等の認識が深まるにつれ、対象園児数が増加している傾向にあるようです。保育士の研修会を充実させ発達障害への理解をさらに深めていただきたい。</p>

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>乳幼児一時預かり事業</p>
<p>重点目標</p>	<p>保護者等が外出・仕事・通院等で育児が出来ないときや、リフレッシュしたいときに児童を一時預かり、育児負担の軽減を図ります。</p>
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>① 対象児 市内在住の4ヶ月から就学前までの乳幼児 ② 時 間 月曜日から金曜日 9時から17時で、1回あたり最長4時間まで ③ 料 金 1時間400円(各年齢共通)</p> <p>H24年度延べ利用者数346人(実人数63人)</p>
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>実施場所は、堀之内子育て支援センターの他に、公立保育園の一時保育(半日単位)や私立保育園の一時保育(時間単位)あるいは民間認可外保育所の一時預かり等類似の事業が行われており、事業の継続実施や使用料等について検討していく必要があります。</p>
<p>【外部評価】</p>	<p>・堀之内子育て支援センターに近くの住民にとっては利用しやすいが、遠い地区の住民との公平性や、他の類似事業との整合性から検討や見直しが必要である。 ・各地域での利用状況、保護者のニーズ、受け入れ態勢等、現状のままの事業継続でよいか検証する必要がある。</p>

平成 24 年度 実施事業等	乳幼児健康支援事業
重点目標	病気が回復期にあるものの、まだ登園や登校が認められていない乳幼児や児童を預かって、保護者の就労を支援します。
取組の状況 と 結果・成果	<p>① 対象児 市内在住の保育園・幼稚園児から小学校 2 年生まで</p> <p>② 時 間 月曜日から金曜日 8 時から 18 時まで</p> <p>③ 料 金 1 日 1,200 円</p> <p>H24 年度延べ利用者数 12 人(実利用 2 世帯 3 人)</p> <p>利用方法</p> <p>① 事前登録(年度初頭又は随時で、既往症やアレルギー等を記載)</p> <p>② 利用時は、前日に受診して医師からの指示書を添付して申し込む。</p> <p>③ 当日の朝の熱が 37.5 度以上の場合は、利用を断るケースもあります。</p>
課 題 及び 改善点	利用者の減少と固定化が見られますし、利用方法が面倒だという意見が寄せられています。また、小出子育て支援センターには非常勤の看護師が1名いますが、休暇等の場合は代替看護師をお願いすることになります。代替看護師が確保できない時は、利用をお断りしているため、将来的には新小出病院の整備に合わせて実施方法を検討していく必要があります。
【外部評価】	•核家族にとっては、本当に必要な支援事業であるが、困った時に利用したいのに利用方法に制約があるので使いづらい制度になっている感があり、利用実績も少ないことから、利活用をもっと柔軟な対応が可能になるよう検討する必要がある。

平成 24 年度 実施事業等	公立保育園等整備事業 ◎さくら保育園跡地の借地解消について ◎守門こども園(仮称)の建設について
重点目標	借地である「旧さくら保育園」の跡地について、借地の解消を図ります。 守門こども園(仮称)の建設については、保護者をはじめとした地域住民との合意形成に努め、「早期建設」の実現を図ります。
取組の状況 と 結果・成果	① さくら保育園跡地について、水稻の作付期までに復田工事を行い、地権者2名に返還しました。 ② 守門こども園(仮称)の建設位置に関して、地元関係者と意見交換を行うなど、合意形成に努めました。年度末の住民説明会に至るまで紆余曲折がありましたが、地区住民の合意が得られたことで、建設に向けて大きく前進しました。
課 題 及び 改善点	守門こども園(仮称)の建設にあたっては、建物だけではなく、既存園舎解体後の跡地利用についても、建設検討委員会(仮)を設置し、スピード感を持って、地域の要望を受けながら整備を進めていく必要があります。
【外部評価】	・守門こども園(仮称)は、建設位置決定までに時間を要したが、結果的に合意が得られたことは評価できます。今後は、建設スケジュールに沿った円滑な事業の進捗と、保護者や地域住民への親切丁寧な説明を粛々と進められるようお願いしたい。

<p>平成 24 年度 実施事業等</p>	<p>要保護児童相談・支援事業</p>																																										
<p>重点目標</p>	<p>児童虐待を発見し、関係機関と協力しながら早期に見守りの体制や支援の体制を整えます。 虐待を受けた子どもの見守りを続け、虐待の未然防止に取り組みます。</p>																																										
<p>取組の状況 と 結果・成果</p>	<p>① 平成 24 年度児童虐待の状況</p> <table border="1" data-bbox="400 629 1374 891"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>身体的</th> <th>性的</th> <th>心理的</th> <th>ネグレクト</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 歳未満</td> <td>3人</td> <td></td> <td></td> <td>6人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>3～6 歳</td> <td>10人</td> <td></td> <td>2人</td> <td>2人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>6人</td> <td></td> <td>2人</td> <td>10人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2人</td> <td></td> <td>1人</td> <td>5人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>高校生等</td> <td>1人</td> <td></td> <td></td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22人</td> <td>0人</td> <td>5人</td> <td>24人</td> <td>51人</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)ネグレクト:子どもの心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置、保護者以外の同居人による虐待の放置など保護者としての監護を著しく怠ること。</p> <p>②会議 代表者会議、実務担当者会議 各1回 個別ケース支援会議 14回</p>	区 分	身体的	性的	心理的	ネグレクト	計	3 歳未満	3人			6人	9人	3～6 歳	10人		2人	2人	14人	小学生	6人		2人	10人	18人	中学生	2人		1人	5人	8人	高校生等	1人			1人	2人	計	22人	0人	5人	24人	51人
区 分	身体的	性的	心理的	ネグレクト	計																																						
3 歳未満	3人			6人	9人																																						
3～6 歳	10人		2人	2人	14人																																						
小学生	6人		2人	10人	18人																																						
中学生	2人		1人	5人	8人																																						
高校生等	1人			1人	2人																																						
計	22人	0人	5人	24人	51人																																						
<p>課 題 及び 改善点</p>	<p>子どもを虐待から守る取り組みを一層充実させるため、要保護児童対策地域協議会の機能強化を図りながら、個々の事案に適切に対応できるよう関係機関と連携を図ることが必要であります。</p>																																										
<p>【外部評価】</p>	<p>•基本的には、関係機関、関係部署と連携し、児の安全確保を図ることであるが、再発の未然防止のため、あらゆる角度から虐待の根本的な原因を究明し、当該児や子育て従事者への総合的支援体制の強化をお願いしたい。</p>																																										

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び
評価の結果に関する報告書(平成24年度分)

発行 平成25年10月
編集 魚沼市教育委員会
〒949-7494 新潟県魚沼市堀之内 130 番地
TEL 025-794-6072 FAX 025-794-2353
URL <http://www.city.uonuma.niigata.jp/>